

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属：心理臨床学科

名 前：有村 達之

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

<作成日、氏名、所属を書いてください>

作成日：2026年5月29日

教員氏名：有村 達之

所属：人文学部 心理臨床学科 心理学コース

1. はじめに

公認心理師と臨床心理士の資格を持ち、病院現場で働いてきました。公認心理師養成をおこなっています。2012年まで九州大学病院心療内科で臨床と臨床研究にかかわってきて、そこで学位も取得しました。2012年より九州ルーテル学院大学の専任教員となりました。熊本大学病院集学的痛みセンターで慢性の痛み患者さん支援をしている現役の公認心理師でもあります。

2. 教育の責任

2025年度は以前に引き続き心理臨床学科心理学コースで主に公認心理師養成教育にかかわっています。大学院でも公認心理師教育にかかわっています。学内ではハラスメント委員会の委員、図書館長を兼任しています。アドバイザーとして学部生の指導も行っています。

(1) 授業科目の担当

2026年度は以下の科目を担当しています（複数教員で担当する科目も含まれます）。

臨床心理学概論、心理臨床学の展開、認知行動療法、精神疾患とその治療Ⅰ、精神疾患とその治療Ⅱ、心理演習Ⅱ、心理実習Ⅲ、卒業研究、心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、心理支援に関する理論と実践Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、研究指導

- 主要授業科目
- 臨床心理学概論：臨床心理学の概要について講義しています。海外の臨床心理学の歴史だけでなく、日本の臨床心理学の歴史についても講義しています。
- 認知行動療法：認知行動療法とはおもに医療分野で実施されることが増えてきた心理療法です。この授業ではストレスマネジメントのための認知行動療法を実際に半年間15回の授業で体験することができます。一般的に大学でおこなわれている認知行動療法の授業は認知行動療法の理論について講義を通して学ぶものが多いですが、これは15回にわたって認知行動療法の集団療法を実際に体験するという認知行動療法の体験学習となっています。内容は

ストレスを記録するモニタリング、別の考え方をする練習を行う認知再構成法、問題に対する解決法をつくりだすトレーニングである問題解決法、問題やストレスを受け入れる手法であるマインドフルネスなどを含んでいます。

- 精神疾患とその治療Ⅰ、Ⅱ：さまざまな精神疾患やそれに対する精神医療の方法について講義します。非常勤講師の一美講師と共同で開講しています。私も一美講師も現役の大学病院の公認心理師ですので、なるべく臨床現場での診療の実際についても講義の際には伝えるようにしています。
- 心理演習Ⅱ：古賀教授、疋田講師と共同で授業を行っています。公認心理師としてのコミュニケーションスキルや心理面接のスキルについて学びます。これらのスキルは座学で知識を学ぶことも大切ですが、実際のスキルを学ぶことも大切なので、クライアントや患者さん、心理面接者の役を演じるロールプレイという手法で学びます。また、実際にそのスキルがどれくらい身についているのかアセスメントすることも重要です。この授業では授業の前後でOSCE(客観的臨床能力試験)を実施し、授業前後にコミュニケーションスキルや心理面接のスキルがどれくらい改善したのかを査定します。OSCE(オスキーと読みます)は医療の専門職である医師や看護師、薬剤師、理学療法士や作業療法士教育の中で近年広く実施されるようになった実技試験のことです。医療の専門職として仕事を行うには、知識だけではなく、実際に患者さんに対して診療を行う際のスキルが必要です。医師であれば患者さんの診察でうまく聴診器を使える、血圧を測ることができるといったスキルが必要です。そのため、そのような専門職を養成する大学では診療に必要なスキルについて学ぶだけではなく、そのスキルが身についているのかも試験を行うようになっています。心理演習Ⅱでは他の専門職とコミュニケーションができるスキルやクライアント、患者さんとうまく関係作りをする心理面接のスキルをOSCEで評価します。授業前OSCEでは合格点を設定し、不合格レベルの人にはどこができていないかフィードバックを行います。授業終了時にはOSCEを行って心理演習Ⅱの成績判定をします。
- 心理実習Ⅲ：医療領域での実習を行います。概ね約5日間程度、精神科などの医療機関で実習を行い、実際の医療機関の業務、心理職の業務、他の専門職との多職種協働について学びます。
- 心理支援に関する理論と実践Ⅰ：大学院で開講されます。支持的精神療法と認知行動療法にロールプレイによって学びます。授業の前半では支持的精神療法を、授業の後半では認知行動療法について学びます。支持的精神療法とは主に疾患を持つ患者さんを対象に提供される心理療法のことです。学部の心理演習Ⅱでは特に重い疾患や障害を持たない健常者レベルの人に提供するカウンセリングのスキルを学びます。この授業では、さらに上級編である疾患や障害をもつ患者さんに対する心理療法スキルである支持的精神療法をロールプレイを通して学びます。重症患者さんに対してカウンセリングスキルだけで対応すると、関係作りがうまくいかない、患者さんが不安定になるなどの問題が生じることがあるため、支持的精神療法のスキルが必要となります。支持的精神療法は医療現場で広く使われている心理療法であり、医療現場で提供する心理療法の基本となるものです。この授業の後半で実施する認知行動療法とはクライアントや患者さんの問題を認知(考え方)、行動などを変えることストレス反応や症状を減らす心理療法です。精神疾患(うつ病など)で休職している人が職場

に復帰するための支援プログラムであるリワークの中で認知行動療法はしばしば実施されています。この授業ではリワークで提供されている認知行動療法を想定してトレーニングを行います。認知行動療法はすでに学部で患者さんとしての体験学習をしていますが、大学院では認知行動療法の集団療法を提供するセラピストとしての学習をロールプレイを通して行い、最終的には1時間の集団認知行動療法を指導できるようになることが目標となります。

- 多職種連携の実際：公認心理師法では公認心理師は他の専門職と連携、協働して業務を遂行する多職種協働、連携が義務づけられています。この授業では多職種連携に役立つ知識やスキルを学びます。
- 研究指導：修士論文指導を行います。本学大学院では科学者－実践者モデルに沿って教育を行いますので、科学的研究である修士論文指導も行います。修士論文は最終的に学会誌や本学紀要に発表することを目標に指導を行っています。私の研究室では主に医療分野での就職を考えている人を受け入れています。医療分野では一般病院などでも職員が学会発表することを奨励されていたり、中には海外に留学したり、研究をして論文執筆をしているような人もおり、臨床現場であっても研究するのが当たり前になっています。心理職の場合、そのような習慣は広まっていないですが、医療分野で心理職が指導的な立場を発揮するためには研究を行うことも必要だと思います。そのため、ここでは研究者として最低レベルである学会誌への論文投稿ができるレベルまで指導を行います。

- 非常勤講師
- 東亜大学大学院 「認知行動療法特論」
- 熊本大学病院 集学的痛みセンター 公認心理師

(2) 教育組織運営

図書館長、研究推進委員会委員

3. 教育の理念

(1)理念 I

学生のみなさんが大学卒業後に長くいきいきと楽しく働けるようになるための教育をするのが目標です。働くためにはコミュニケーション力や問題解決能力を含めた社会人基礎力が必要です。社会人基礎力が身につくように指導することを心がけています。これは公認心理師などの専門職を目指すみなさんも同じです。いきいきと楽しく働くためにはストレス対処能力が必須です。ストレス対処については「認知行動療法」の授業で指導しますが、その他の授業の中でも言及していきます。また、「長く」いきいきと働くためには長期にわたって無理のない生活の仕方を身につけることも必要です。それは無理のある生活の仕方に気づくことや自分に不足していることを身につけることを含んでいます。何かを認めたくない、否定したいという自分に気づくこともあるかもしれません。今のあり方に気づくことは必ずしも楽しい体験ではなく、傷ついたり、何かを手放す必要が生じることもあります。しかし、それを避けていると結局、しんどい思いをする

ことになります。また、なにかを手放す、捨てる、あきらめることで新しい何かを得ることもあると思います。捨てることやあきらめることは必ずしも悪いことばかりではありません。前進のきっかけになることもあるでしょう。皆さんが今の自分のありかたに気がつくようできる範囲で指導していきたいと思います。

(2)理念2

公認心理師を目指すみなさんの場合は、社会人基礎力に加えて心理職としての専門的な知識やスキルが必要となります。それらについても講義でお話ししたり、指導するなどします。

(3)理念3

仕事を行う上では知識やスキル以外に、その基盤となる態度やありかたも大切です。心理職としてのぞましい態度やあり方についても伝えていきます。ゼミや実習などの小集団指導では、態度やあり方が身につけていないと判断した場合はその場で指導することもあります。なぜ指導されているのかわからない場合は質問してください。説明します。

4. 教育の方法

(1)具体的な指導

指導を行う際に、どこが問題になっているのかを明確に教示し、どうしたらよいのかを具体的に指導することを基本としています。自分では自分の問題点はなかなか気がつかないことも多いと思いますので、教員からその場で指摘することもあります。指導ではなるべくその人がちょっと頑張ればできるレベルのことを指導することを心がけています。公認心理師関係の授業ではなるべく現場での業務が具体的に想像できるような説明を心がけています。

(2) セルフコントロールができる

自分で問題解決できる力のある人の場合は、教員が教えすぎないようにして、なるべく自分の力で解決できるようにしてもらいます。

(3) 認知行動療法での患者さん指導に準じる

教員が専門としている認知行動療法では、患者さんに必要な対処スキルを教育するというのが基本スタイルです。大学や大学院教育でも同様のスタンスで教育しています。患者さん指導のモデルを示す意図があります。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力1

心理療法の教育では教育の成果が見えにくいというのがあると思います。そこでなるべく教育成果、成績を可視化するようにしています。

(2)改善努力2

大講義室の座学ではみなさんとのやりとりがどうしても減ってしまいますので、授業の感想を書いてもらって目を通すようにしています。

6. 教育の成果・評価

教育評価を可視化する試みとして、パフォーマンス評価、ルーブリックを必要な科目で取り入れています。心理演習Ⅱでは参加学生のみなさんのコミュニケーションスキル、心理面接スキルをOSCEを用いて可視化することを行っています。学部授業で授業の感想を成績評価に取り入れている授業があります（精神疾患とその治療Ⅰ、Ⅱ）。そこでは感想評価の基準をルーブリックで行い、評価基準を明確にしています。大学院の心理支援に関する理論と実践Ⅰでは提出された感想をルーブリックで評価し、集団認知行動療法での指導スキルをロールプレイに対する認知行動療法尺度で評価して成績評価をしています。認知行動療法尺度とは認知行動療法のセラピストスキルを評定する尺度であり、世界中で広く使われています。認知療法尺度を使うことで授業に参加している皆さんの認知行動療法指導スキルの担保をしています。これは公認心理師教育の目標であるアウトカム基盤型教育の方向性と一致しています。アウトカム基盤型教育とは最終的に到達すべき目標・ゴール（アウトカム）を明示し、学習者がその目標・ゴールに向かって主体的に学ぶことを目指す教育システムのことです。認知行動療法尺度に明示されたセラピスト行動が公認心理師として最終的に到達すべき目標となります。

7. 今後の教育に関する課題と目標

アウトカム基盤型教育で必要となる学習目標の提示はまだ一部しか実行できていないため、その方向性を今後も進めてすべての科目でアウトカム基盤型教育の方向性を確かなものにしていく予定です。心理面接スキルをOSCEを用いて可視化することについては、研究対象とすることを考えています。OSCEや認知療法尺度の結果は卒業時にディプロマサプリメントとして可視化することも検討しています。

【根拠資料】

- ・担当科目シラバス
- ・授業アンケート結果
- ・